

市長提案説明要旨

市議会3月定例会は、2月22日に招集され、3月7日までの会期で開催されました。定例会初日に行われた市長提案説明の要旨をお伝えします。

「ご報告とお詫び」

去る2月16日、市職員が飲酒運転のうえ、交差点で信号待ちの乗用車に衝突し、現行犯で逮捕されるといふ事件が発生しました。このような事態を招いたことは誠に遺憾であり、市職員に対する市民の皆様の信用を著しく傷つけたことを深くお詫び申し上げます。

今回の事件を受け、二度とこのような事件が起こらないよう、2月17日には全職員に対して飲酒運転等の防止の徹底について文書で厳しく指示しました。今後、再発防止の徹底を図りながら、市民の皆様の信頼回復に努めたいと考えています。

「記録的な大雪」

バス路線や通学路の安全確保のための交差点等の排雪は計画どおり行っています。除排雪にご協力をいただきました国、県並びに市建設業協会など関係の皆さまには心からお礼申し上げます。市としては、今般の豪雪に対し早急な対策を講じられるよう秋田県市長会を通して、総務省及び国土交通省へ豪雪に伴う特別交付税の増額配分や除雪費などへの補助について緊急に要望を行っております。

「循環型社会形成」

本市の循環型社会形成に向けた方向性を検討していただいております。能代市循環型社会形成市民懇談会から2月15日に提言がなされました。

生ごみ堆肥化への取り組みなど具体的な提言もありましたが、基本的には新市において引き続き持続可能な社会形成に向けての理念づくりなど、多くの事業者、市民を巻き込んだ地道な議論を行うことを求められています。二ツ井町でも同様の議論が行われており、合わせて新市へ引き継いでいきたいと考えています。

「能代東インターチェンジ」と決定

本年供用開始予定の日本海沿岸東北自動車道（仮称）能代東インターチェンジの正式名称につきましては、昨日、国土交通省能代河川国道事務所から「能代東インターチェンジ」と決定した旨、公表されました。能代東インターチェンジは、能代工業団地や白神山へのアクセスなど、当地域の産業面や観光面など幅広い分野での利用が期待されます。

能代市老人保健福祉計画・介護保険事業計画

これまで老人保健福祉計画の中に位置づけていた各種健康教室や配食サービス事業等の介護予防・地域支え合い事業を、介護保険の地域支援事業として実施することとしています。

また、介護保険事業計画については、高齢者数、要介護認定者数とも引き続き増加傾向で推移することや、新たに創設されたデイサービスやショートステイ等も利用できる小規模多機能型居宅介護サービス等を見込むことにより、第三期計画における第一号被保険者の介護保険料基準額を年額五万四五百円とすることとしています。

国民健康保険事業

依然として、一人当たり医療費が増え続けていること等により総医療費は増加しています。また、介護サービス利用者の増加に伴い、介護納付金も年々増加していますが、国民健康保険の医療分及び介護分の収入は、長引く地域経済の低迷などから引き続き厳しい状況となっています。

今年度は、財政調整基金をすべて取り崩しても、なお財源が不足することから医療分の税率を改正しましたが、平成18年度においても、加入者の所得や医療費の動向から推測すると改正が必要な状況にあると考えています。

雇用情勢

国では地域再生のための雇用創出を支援する「地域雇用創造支援事業」を開始しましたが、本市でも同事業の活用を図るため、昨年11月に能代地域雇用創造協議会を設立しました。

昨年末には新たに創業した事業主に創業資金を助成する「地域創業助成金」の地域重点分野の設定を申請し、本年1月に認定され、現在、制度の周知と利用促進を図っています。こうした中で、4月から本格稼働を予定している杏林製薬株式会社能代工場の全従業員140名の約半数が能代山本地区からの雇用であること、能代工業団地内の総従業員数が本年4月には千人を超えています。明るいきざしも見えてきています。



杏林製薬株式会社能代工場